

# 経営比較分析表（令和3年度決算）

福島県 猪苗代町

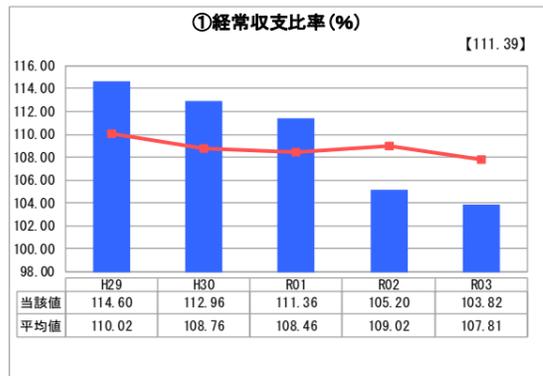
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A7	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金 (円)	
-	88.49	94.79	3,080	

人口 (人)	面積 (km <sup>2</sup> )	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
13,387	394.85	33.90
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km <sup>2</sup> )	給水人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
12,571	178.53	70.41

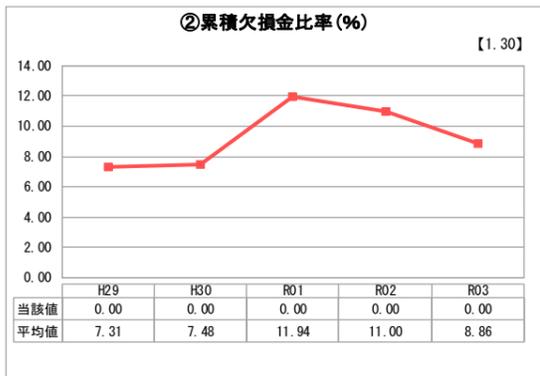
**グラフ凡例**

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

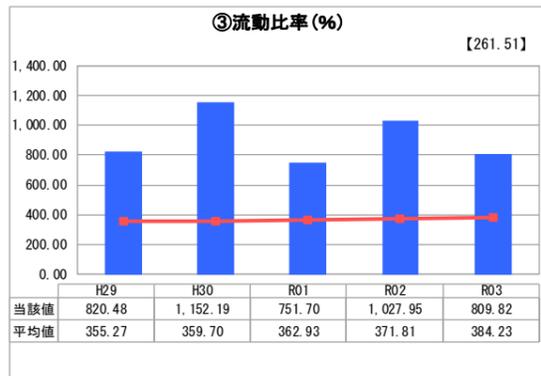
## 1. 経営の健全性・効率性



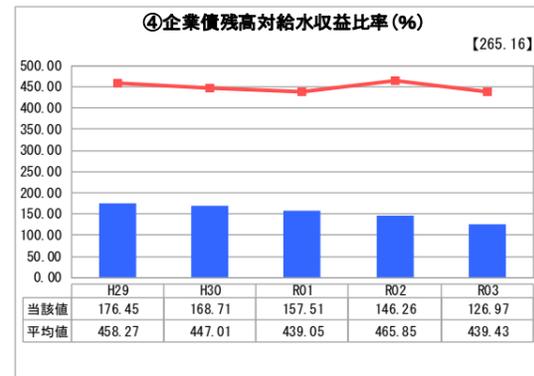
給水収益や一般会計からの繰入金等の収益で、維持管理費や支払利息等の費用を賄えているかの指標。



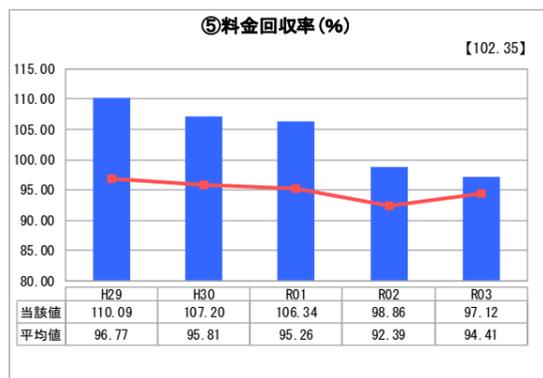
営業収益に対する累積欠損の状況を表す指標。



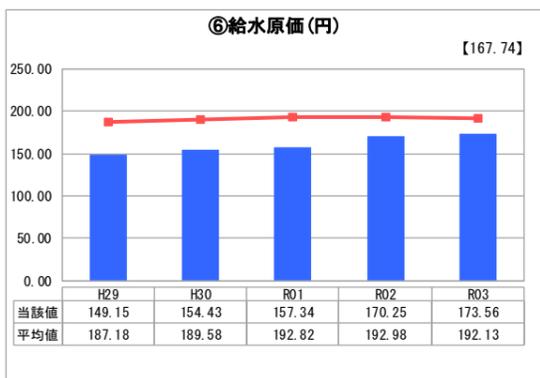
1年以内に支払うべき債務に対して、その支払い能力を表す指標。



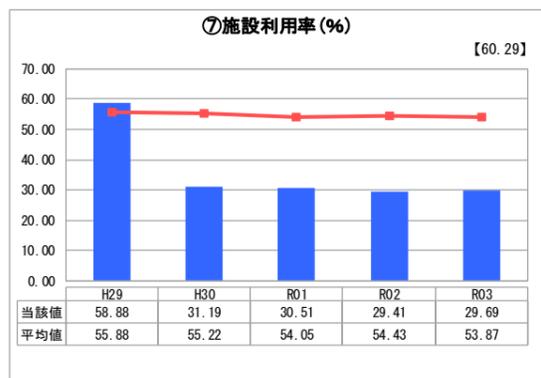
給水収益に対する企業債残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標。



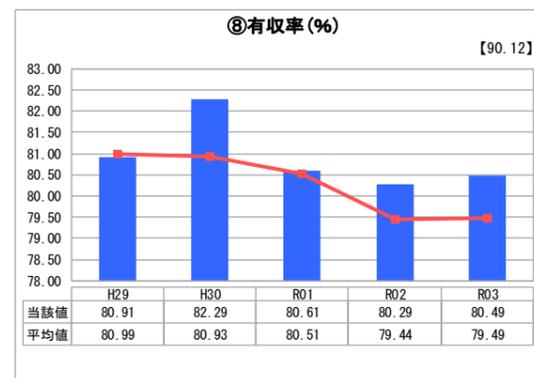
給水に係る費用が、どの程度給水収益で賄えているか。料金水準等を評価する指標。



有水量1m<sup>3</sup>あたりについて、どれだけ費用がかかっているかを表す指標。

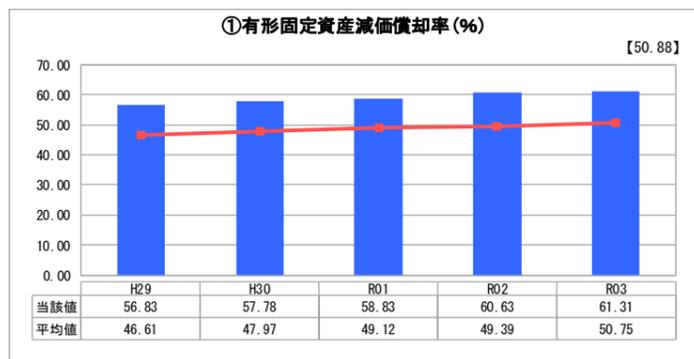


1日配水能力に対する1日平均配水量の割合であり、施設の利用状況や適正規模を判断する指標。

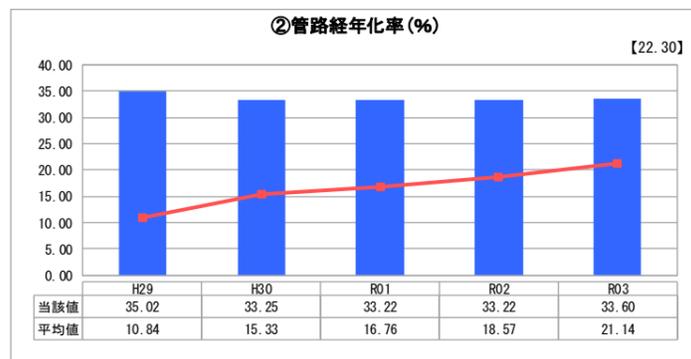


施設の稼働が収益につながっているかを判断する指標。

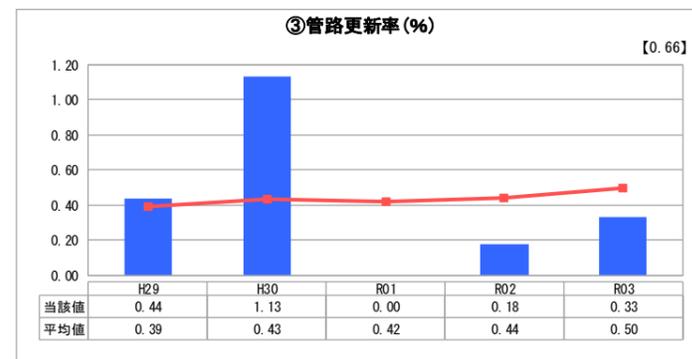
## 2. 老朽化の状況



有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを表し、資産の老朽化度合いを示している。



法定耐用年数を超えた管路延長の割合を表す指標で管路の老朽化度合いを示している。



当該年度に更新した管路延長の割合を表す指標で、管路の更新ペースや状況を把握できる。

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支、流動比率は100%を超え、累積欠損もないが、料金回収率が100%を下回った。これは、給水に係る費用を現在の給水収益では賄えていないことを表しており、徴収率を上げることや料金改定を検討し料金確保に努めなければならない。  
 企業債残高比率については、ここ数年新たな企業債借入を行っていないため、類似団体の平均値より低く、企業債残高の割合は少ない。  
 施設利用率については、利用者の節水意識の向上や人口減少に加え、新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、観光客やスキー客などの交流人口は回復の兆しがあるものの、使用水量が減少したままのため、施設利用率が低くなり、類似団体の平均値を大きく下回った。

### 2. 老朽化の状況について

第3次拡張事業（昭和53年から昭和62年）で整備した資産の一部は、既に法定耐用年数に達しており、有形固定資産減価償却率が高くなっている。  
 管路更新率は、前年度より0.15%微増したが、漏水箇所は年々増加傾向にあり、法定耐用年数に達している管路を中心に計画的に管路の更新を進めなければならない。

### 全体総括

現在のところ、経常収支比率は100%を上回っているが、料金回収率同様減少傾向にある。  
 また、施設や管路の老朽化が進んでおり、優先順位や施設の統廃合等適切な投資規模を予測して計画的な更新事業を行っていかなければならない。  
 そのためには、多額の費用が必要となるが、人口減少や節水意識の高まり等により、現在のままでは収入の増加は見込めないため、今後も経費の削減に努めるほか、料金改定や新規企業債借入等の財源確保について検討が必要である。